

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
編集委員 北條 直樹
東京千代田区西神田 8-7-7 (郵便) 29332
電話 (262) 2426・6・36337
電報 修学新 (東京) 6-36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団行動の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

全修協 修学旅行・校外学習 両セミナーを名古屋で開催

第四回 全修協 修学旅行セミナー



愛知県勤労会館にて(9月12日)

設定し、学識経験者を講師に招いて研究協議を深める「修学旅行セミナー」を、文部省の後援により、昭和六十一年度から毎年開催してきた。第四回を迎えた本年は、名古屋分室を事務局に昇格させてその機能の充実強化を図ったこと、東海地区中学生のための修学旅行専用電車「こまどり号」運行三十周年を迎えたことなどを記念して、九月十二日、十三日の両日名古屋で開催された。

行の在り方(当日は名古屋市内を中心とする東海各県を始め全国各地域から校長、教頭、教諭等百七十名が参加した。主催者(全修協)を代表して山本理事長代理鈴木常務理事、来賓代表名古屋市長立小中学校校長長石田彰氏(丸の内中学校校長)のあいさつの中で、文部省初等中等教育局教科調査官高橋晋夫氏が「学習指導要領改訂の経緯」と題して、新しい学習指導要領における特別活動の「人間としての生き方」についての自覚を深め、「自己を生かす能力を養う」というねらいに沿って、移行措置について具体的に述べられた。この講演を基調として、川美術館の見学をもって全日程を終了した。

修学旅行の自主的行動(班単位の自主見学等)をめぐり、活発な意見が交換され、具体的な実践活動の紹介もあつて、多くの示唆が与えられた。記念講演は、中日新聞論説主幹小柳健雄氏が「何をどう書くか」との演題で、皇室取材のエピソードなど豊富な材料を駆使して、記者根性養成の過程から、鋭い感性で事件をとらえ、誠実簡明に書くことが要諦であると結び、くだけた調子のなかにも多くの示唆を含む内容の講話であった。二日目は、各会代表による「二日目の経過をふり返り、今後のセミナー発展をめざして、御座席プロジェクト」に続いて、御園座プロデューサー寺沢平次氏が「校外学習としての歌舞伎鑑賞」歌舞伎・技法と魅力」と題して、

修学旅行の自主的行動(班単位の自主見学等)をめぐり、活発な意見が交換され、具体的な実践活動の紹介もあつて、多くの示唆が与えられた。記念講演は、中日新聞論説主幹小柳健雄氏が「何をどう書くか」との演題で、皇室取材のエピソードなど豊富な材料を駆使して、記者根性養成の過程から、鋭い感性で事件をとらえ、誠実簡明に書くことが要諦であると結び、くだけた調子のなかにも多くの示唆を含む内容の講話であった。二日目は、各会代表による「二日目の経過をふり返り、今後のセミナー発展をめざして、御座席プロジェクト」に続いて、御園座プロデューサー寺沢平次氏が「校外学習としての歌舞伎鑑賞」歌舞伎・技法と魅力」と題して、

校外学習の在り方

高等学校 校外学習セミナー

(財団法人 全国修学旅行研究協会) (山本理事長)は、新学習指導要領の移行措置が進められていることをうけて、これからの校外学習の在り方を考える「高等学校校外学習セミナー」を、九月三十日名古屋で開催した。

一、若者と歌舞伎
一、世界が見つめる歌舞伎
一、演劇に国境はない
一、演劇に国境はない
一、演劇に国境はない

や、歌舞伎役者の家に生まれた男子は、三歳頃から修業に入り、中学校を卒業する頃には二百種ぐらいの芸を覚えてしまつて、厳しい修業の話を、現在の歌舞伎は、芸術性は高いが娯楽性に欠けるといふ指摘など、興味深い講演を行った。

風紋

川越は埼玉県の西部の中心地、長禄元年(一四五七)太田道真、道灌父子の築城でその歴史が始まる。江戸の北の守りとして、城主には代々幕府の重臣や譜代の大名が配置され、大消費地江戸の物資供給地として大いに栄え、富裕な商家が並び、「小江戸」と呼ばれた。川越大師・喜多院は、第二十七世天海僧正が幕府の信任厚く、その縁で江戸城内の建物を移築、一家光護生の間「春日局化粧の間」が現存し、今年大河ドラマ「春日局」の放映で脚光を浴びている。境内の笑つぷり怒るあり、思索するあり、ひそひそ話し合う等五百四十体の五百羅漢は出色、野に山にある羅漢もいかに、ほとんど無傷で保存管理されているのがいい。さらに東京の遊子の足をひきつける、豪商たちの心意気を感じる蔵造りが、中央通りを北へ向かう両側に現れる。黒漆喰塗りの重厚なたたずまい、代表的な江戸時代の建築物。火事とげんか江戸の華」といわれた江戸にあって、江戸との取引で栄えた川越も、財力のある商家が耐火性に勝れた蔵造りを建てるようになった。中でも寛政四年(一七九二)に建てられた大沢家が有名。明治二十六年大火後の蔵造りも多いが、そのほとんどは今も営業している。そして川越のシンボル「時の鐘」が毎日四回響きわたる。さらに「菓子屋横丁」や静かな寺社、川越城本丸御殿など、昔懐かしい雰囲気が随所にたたずむ。本家の江戸で姿を消した江戸情緒の名残を求め、中・高校生は自主見学の好適地としても人気上昇中である。(編)

時言

近鉄「あおぞらII号」新出発にあたって

編集委員 北條 直樹

小学校修学旅行専用電車「あおぞら号」は、二十八年の運行を終え、十月三日に「あおぞらII号」にバトンを引き継いだ。このII号は「あおぞら号」創設の歩みは全修協の創立及び運動ともあった。戦後、子供たちの夢と希望を乗せて修学旅行は復活したが、輸送力の不足や受入設備の荒廃など、現在では想像も及ばない困難な状況であった。そして紫雲丸事故による修学旅行生の遭難が起ったのである。全修協は、そうした悲惨な事故を再発させようとはならないと、全国都道府県教育委員連絡協議会の同志を糾合し、山本種一(大阪府教育委員長が代表)となって、設立発起人となり、昭和三十年六月、修学旅行の安全確

保と改善向上を目的として設立された。三十二年に文部省許可の財団法人となり、困難な状況のもと、輸送力増強運動を展開し、「あおぞらII号」(こまどり)九州(「あおぞらI」)東北(「わかば丸」)瀬戸内海(「あおぞらII」)など、陸海にわたって中・高修学旅行専用列車・船創設に成功した。そしてその運動の中で、近鉄の教育に対する理解を得、三十六年には、四億四千万円(昭和36年当時)の巨額を投じて小学校専用電車「あおぞら号」が新設されたのである。全修協の基本方針は、安全性の確保や経済性の適正を基礎として、いかに教育性の高揚を図るかということである。「あおぞら号」は、三十七年以来、四半

世紀以上になつて、九百六十万人の子供の夢と希望を乗せて、走行九百四十キロ、一両あたり地球十五周を無事故で走り続け、用電率として、別項のように現代に必要とされる設備・機器は、ほとんど完備している。その間、大阪府小学校長会を中心とする運営協議会の協力によって、連合輸送計画は円滑に進められ、安全性確保の基盤になったことができた。

また、近鉄当局の英断による「子供運賃の四割引」実現は、義務教育費の保護者負担を軽減し、全修協の公的補助増額運動と相まって、全員参加の修学旅行を実現することができた。

修学旅行の目的は、本来、教育性の高揚の増加と行先の多様化にある。安全性や教師と児童及び児童相互の触れ合いを考へ、一泊三日の行程、児童の疲労度、それに経済性の適正、国土学習としての価値な見聞を広め、望ましい体験を与えること。も「あおぞらII号」は果たしたといえる。「あおぞらII号」の利用が倍増されてもよい。大阪、京都、名古屋から発車し、八木、増や利用増を図り、二十一世紀を担う子供たちの夢と希望を乗せて、豊かな体験をさのうちに予約で満員になつたという。人々、せ、生涯の楽しい思い出となる修学旅行にしたいものである。

関委研究発表会

11月17日 前橋で開催

- 恒例の関東地区平成元年度修学旅行研究発表会を、群馬県の実態調査と事例研究を中心に行ないます。
- 主催 (財)全国修学旅行研究協会、関東地区公立中学校修学旅行委員会
- 1 後援 群馬県教育委員会、同市町村教育連絡協議会、群馬県中学校長会ほか
- 2 会場 群馬県生涯学習センター
- 3 日時 平成元年十一月十七日(金) 十三時から
- 4 会場 群馬県生涯学習センター
- 5 研究発表 (財)全国修学旅行研究協会、千川東京都千代田区西神田二一八七
- 6 研究発表 (財)全国修学旅行研究協会、千川東京都千代田区西神田二一八七
- 7 研究発表 (財)全国修学旅行研究協会、千川東京都千代田区西神田二一八七
- 8 研究発表 (財)全国修学旅行研究協会、千川東京都千代田区西神田二一八七
- 9 研究発表 (財)全国修学旅行研究協会、千川東京都千代田区西神田二一八七

第6回 全国修学旅行研究大会

12月1日 大阪で開催

- 「特色ある我が校の修学旅行」を主題に、第六回全国修学旅行研究大会を開催します。
- 主催 (財)全国修学旅行研究協会、近畿地区公立中学校修学旅行委員会
- 1 後援 文部省、近畿各府県教育委員会
- 2 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行委員会
- 3 協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行委員会
- 4 日時 平成元年十一月一日(金) 十三時から
- 5 会場 大阪府教育会館
- 6 テーマ 「特色ある我が校の修学旅行」

校の修学旅行
7 内容 (1)研究発表
自主性の創造を目指して富田林市立富田林第三中学校教諭 林 一幸氏
学校教諭 林 一幸氏
生徒たちで創る修学旅行西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭

校の修学旅行
7 内容 (1)研究発表
自主性の創造を目指して富田林市立富田林第三中学校教諭 林 一幸氏
学校教諭 林 一幸氏
生徒たちで創る修学旅行西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭

校の修学旅行
7 内容 (1)研究発表
自主性の創造を目指して富田林市立富田林第三中学校教諭 林 一幸氏
学校教諭 林 一幸氏
生徒たちで創る修学旅行西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭 西宮市立深津中学校教諭

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く思い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト

本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2

支店/国内250店(登録)/海外15店 ©運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行

66

今回は、九月十二日愛知県勤労会館(名古屋昭和区)で開催された「第四回全修協修学旅行セミナー」における講演「学習指導要領改訂の経緯」及び九月三十日名古屋観光ホテルで開催された「高等学校校外学習セミナー」における講演「新教育課程の方向と校外学習の在り方」(いずれも高橋哲夫氏)の要旨をお伝えする。

改訂の経緯

学習指導要領

一 修学旅行セミナー講演要旨一

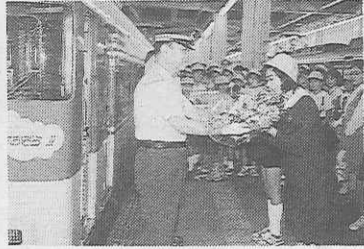
一、特別活動の移行措置について(修学旅行新聞第332号参照)
(1)平成元年度(第一段階)
○総則第一の1(自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ると)

あおぞらII号(二世号)運行を開始 近鉄

【関西支局】近畿日本鉄道では、二階建て修学旅行専用電車「あおぞら号」の代替車として、「あおぞらII号」(あおぞら二世号)十両をデビューさせた。(一面一時間一参照)

10月3日に出発式

十月三日、大阪市立平野南小学校(西田富夫校長)児童を乗せた「あおぞらII号」が、秋の伊勢・志摩路へ初の修学旅行専用電車として近鉄上本町駅を発車した。



児童代表から花束を贈呈

素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積み重ねていくような活動を(1)行うこと。
○特別活動の「目標」(人間としての生き方)についての自覚を深め、自己を生きる能力を養うこと。
○学級活動の授業時数(35分)の幅をもつて、弾力的に扱うこと。
○部活動によるクラブ活動の一部又は全部の代替を実施する。

校外学習の方向と

校外学習の在り方

校外学習セミナー講演要旨一
新教育課程の方向と
校外学習の在り方
教育改革の一環としての指針から質的な充実への転化を要する。
(2)平成二年度(第二段階)
○学校行事については集団宿泊、奉仕及び勤労生産にかかわる体験的な活動を一層充実させること。

あおぞらII号の機能設備等

試験区間は、上本町(大阪)から五位堂(奈良県)までの区間で、五位堂まで折返し高安まで乗車、高安から最新の臨時列車(修学旅行にも利用される)に乗り換え上本町まで。
五位堂駅での折り返しの間を利用して、車内で全修協協を代表して瀬尾武敏大阪支部長からあいさつが行われ、続いて、あおぞら号運営協議会代表(あおぞら号運営協議会会長)から「あおぞらII号」の実現に対する全修協並びに近鉄への感謝と「あおぞらII号」の一層の利用を願うあいさつがなされた。また、近鉄山本卓営業企画課長から電車の機能・設備等の概要が説明された。



糸井 一氏(いとい いち)

糸井一氏(いとい いち)は、全日本修学旅行研究協会(京都府支部長)九月八日、心不全のため京都府与謝郡岩瀬町岩瀬二〇〇八の自宅で逝去。八十六歳。喪主は妻スミさん。同日密葬を済ませ、葬儀は故人の遺志により行われ、遺体は京都大学へ献体された。糸井氏は京都大学経済学部卒業、京都府内の高校教諭、中学校長を歴任、京都府職員組合執行委員長、(社)京都府職員互助組理事長等の要職を務めた。昭和四十七年から(財)全修協京都府支部長。

箱根高原ホテル
とびだせ自然へ 緑の箱根へ
レクチャーホール
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

さわやかな奥日光の高原で素晴らしい修学旅行の一夜をお過ごし下さい。
そのほか 冬期はスキー教室 夏期は林間学校
奥日光高原ホテル
〒321-16 日光市湯元2549-6
(TEL) 0288-62-2121代表

きっと、思い出いっぱいの旅になる。
修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。
体験学習のご案内
●エンジン教室 ●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●モトピア ●モータースポーツ観戦 ●地曳綱
●潮干狩り ●伊勢形紙彫り ●茶摘み ●テーブルマナー 他
お問い合わせ・お申し込みは
鈴鹿サーキット
修学旅行課 〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111